

第32回 佐賀県アマチュアゴルフ選手権大会

AMATEUR GOLF CHAMPIONSHIP in SAGA



アマゴルフの祭典 出場者募集!!

予選 2026 6/7 SUN 17会場

決勝1日目 8/22 SAT 3会場

2日目 23 SUN 3会場

昨年の大会より



- 主催■ (公財)佐賀県スポーツ協会、佐賀県ゴルフ協会
- 後援■ 佐賀県、九州ゴルフ連盟
- 主管■ 佐賀県アマチュアゴルフ選手権大会実行委員会 (佐賀県ゴルフ場協議会、佐賀新聞社、サガテレビ)
- 特別協賛■ 佐賀トヨタ自動車株式会社



大会HP

予選R参加申込受付 3月20日(金)~4月20日(月)

昨年の大会の各部門の優勝者 (佐賀新聞掲載記事より)



決勝最終日
部は田中雅之(伊万里市)、70歳以上の部は青木英樹(唐津市)、80歳以上の部は藤本隆(唐津市)、中学・高校生は藤本直翔(神埼市)が頂点に立った。
女子一般の部は松尾葵(佐賀市)、50歳以上の部は齊藤すみか(鳥栖市)、60歳以上の部は井上愛結(花祭GC)、中学・高校生は井上愛結(花祭GC)がそれぞれ制した。(井手一希、小島亮樹、丸山美陽)

第31回佐賀県アマチュアゴルフ選手権大会(県スポーツ協会・県ゴルフ協会主催、佐賀新聞社など実行委主催、佐賀トヨタ自動車特別協賛)の決勝大会最終日は24日、佐賀市の大和不動産カントリー倶楽部、フジカントリークラブ、北山カントリー倶楽部の3会場で行われた。男子一般の部は、西吾朗(佐賀市)が初優勝を飾った。男子50歳以上の部は高山順二(佐賀市)、60歳以上の部は

男子一般 西(佐賀市)逃げ切り 初栄冠



男子一般の部で初優勝し、笑顔を見せる西吾朗(佐賀市)。(佐賀市の大和不動産カントリー倶楽部) (撮影・米倉義房)

10度目の挑戦「泣くほどうれしい」

ヒーロー

我慢のゴルフで観戦を逃げ切った。男子一般の部は、過去2回の準優勝経験がある西吾朗(佐賀市)が悲願の初優勝。「これ以上はないです。泣くほどうれしい」と喜びをかみしめた。

1日目は2位に3打差をつけて首位発進したが、2日目は思うように運ばなかった。「真逆の出来だった。気負って力が入り過ぎていた」と西。それでも得意のティーショットは安定し、

仲間の祝福「感謝」

大事な場面でのパットもきれいに決まった。

大会には2015年に初出場し、今回は10度目の挑戦。3年前はプレーオフで惜しくも敗れ、その翌年は初日トップ通過するも頂点に1打及ばなかった。「本当に悔しかったが、二つの負けで火がついた」と振り返る。苦しい思いが頭をよぎりながらも、「絶対に今年を逃してはいけない」と強い気持ちで粘り続けた。

10年前は1人でエントリーしたが、初優勝後にはたくさんの仲間から声をかけられ、祝福を受けた。「仲間が増え、救われてきた」と感謝しつつ、大きな目標を達成し、「今回がまぐれでないと証明できるような精進します」と穏やかな笑顔で次を見据えた。(丸山美陽)

各部門の優勝者 喜びの声

高山 順二(佐賀市) 忘れられない誕生日に

男子50歳以上

会場はホームコースで支配人ら周囲とともに喜びをかみしめた。2日間を通じてドライバーはなかなか安定しなかったが、「アプローチとパターがきいた」といい、ショートゲームをきっちりまとめた。最終日は最終組で緊張しつつも、「奥りに引っ張られて力が発揮できた」。この日は自身の52歳の誕生日。「忘れられない1日になった」と目を細めた。

田中 雅之(伊万里市) 前回は「リベンジできた」

男子60歳以上

1打差で準優勝だった前回の雪辱を果たし、「リベンジができた」と喜ぶ。安定したショットで初日から首位に立ち、そのまま後続を突き放した。2021年に北山カントリー倶楽部で優勝を経験し、「相性の良いコース」と自負する。九州内の大会に積極的に出場しており、「飛距離が落ちてきたので、伸ばしていくことが課題」と次の舞台を見据えた。

青木 英樹(唐津市) 王座奪還「連覇を目指す」

男子70歳以上

トップと4打差で迎えた最終日。序盤に14名のチップインバーディーを決め、「気合が入った」。初日に池ぼちぼちしてダブルボギーをたたいた5番では、バーディーを奪って調子を維持した。昨年2位の雪辱を果たし、逆転優勝での王座奪還。「やっぱりうれしいね。相手がいることだから難しいけど、2連覇、3連覇を目指していきたい」

藤本 隆(唐津市) 違う人とのプレーは楽しい

男子80歳以上

男子80歳以上の部でただ一人、70台のスコアにまともな、14回目の優勝を飾った。前日の雨の影響で2日間にまたがったラウンドとなり、「どうにか体力が持ったよ」と汗をぬぐった。24日はティーショットからの再開で、緊張を解く中で正確に飛ばした。「普段と違う人とプレーできるから大会は楽しい。健康でゴルフを続けたい」と笑顔を見せた。

5打差ひっくり返す「前半の我慢が優勝につながった」

女子一般

〇鮮やかな逆転劇だった。女子一般の部は、初日7位の松尾葵(佐賀市)が5打差をひっくり返して頂点に立った。

高校3年の夏に中高生の部で5度目の優勝を飾って以来、7年ぶりに大会に戻ってきたが、初日は思うようなプレーができなかった。「緊張しすぎてミスが連続した」と振り返り、6オーバーでの折り返しとなった。

2日目は、指導者でもある父・文人さんにアドバイスをもらい、構えの向きも見直して臨んだ。同じグループの実力者を意識しながらのラウンドになり、「あと3つバーディーを取って上がるしかない」と意気込んだ7番ホール。残り120を8番アイアンで1打につけた。「前半に我慢できたことが後半、そして優勝につながった」と振り返った。

フルタイムで働きながら練習を重ね、昨年11月の全国大会では3位入賞した。「会社の人たちが挑戦を応援してくれた」と感謝し、「今年の全国大会で優勝したい」と決意を口にしていた。(丸山美陽)



女子一般の部 通算152で優勝した松尾葵(佐賀市)。(佐賀市の大和不動産カントリー倶楽部)

自身のプレーを高めて

競技委員長 永田 満

初日のピンボポジションは全体的にいい位置だったが、2日目の位置は決勝大会の最終日ということもあり、少し難しかったと思う。しかし、初日も2日目もスコアをまとめるのが真の勝者。勝てた人も勝てなかった人も、選手のみならずはこれまで以上に研さんし、自身のプレーを高められるよう頑張ってください。



大会講評

各部門の優勝者 喜びの声

齊藤 すみか(鳥栖市) 割り切って臨んだ

女子50歳以上

雨で中断となった初日を2オーバーで終え、いい位置に付けている」と感じる一方、優勝を意識して肩に力が入った。さらに人生初のプレーオフにもつれ込んだことで緊張はピークに達した。「2位でも悪くない結果。後はやるだけ」と割り切って臨んだことが功を奏し、実力者との一騎打ちに勝利した。「また入賞できるように頑張りたい」と意気込む。

佐藤 桂子(北山CC) 集中切らさず頑張った

女子60歳以上

周囲から「練習の鬼」と呼ばれる努力家で、その成果を存分に発揮した。50歳以上の部からの連続優勝を5に伸ばし、「スコアも悪くなく、よく頑張った」と胸を張る。初日は1アンダーと好調で、雨による中断後も「良いイメージのまま続けよう」と集中力を切らさなかった。「この大会のおかげでゴルフ人生が楽しくなった」と話し、優勝の継続に意欲を見せた。

廣木 直翔(神埼市) 全体的に調子良かった

男子中高生

日本ジュニア選手権からの連戦にも関わらず、強さを見せて2連覇を果たした。初日は2位に9打差の6で首位発進し、「疲りもあったが、全体的に調子が良かった」と振り返る。最終日はドライバーを持ち替えたことによるミスもあったが、リードを広げて勝利をつかんだ。9月に日本オープン選手権の最終予選を控えており、「良いイメージができた」と満足げに話した。

井上 愛結(花祭GC) パット修正、悲願の優勝

女子中高生

昨年はプレーオフで敗れ、準優勝。悲願の優勝に「女子中高生の部で最年長だったので、恥ずかしい姿を見せるわけにはいかなかった」と安堵(あんど)の表情を浮かべた。初日に苦戦したパターをきっちり修正し、最終日はしっかりとパットを沈めて首位を維持した。医学部を目指す、受験勉強に本腰を入れる。「競技で培った集中力を勉強にも生かしたい」

松尾(佐賀市)鮮やか逆転